

# 漢文 李白『早発白帝城』定期テスト対策問題 | 形式・押韻・現代語訳・句法の頻出設問と解答 解答・解説

---

## 問1 七言絶句

(一句が七字、全四句で構成される漢詩。だから「七言絶句」。)

## 問2 イ (詩仙)

(李白は奔放で雄大な作風から「詩仙」と呼ばれる。なお「詩聖」は杜甫を指す。)

## 問3 間・還・山

(第一句末「間」、第二句末「還」、第四句末「山」。第三句末「住」は韻をふんでいない。)

## 問4 -an (アンの音)

(間 (kan)・還 (kan)・山 (san) が、いずれも「アン」のひびきでそろっている。)

## 問5 朝、朝焼けの雲がたなびく中、白帝城に別れを告げて (出発する)。

(「辭す」は別れを告げる・出発するの意。「彩雲の間」は朝日に輝く雲のあいだ。)

## 問6 朝日に照らされて、色とりどりに美しく輝く雲。

(「彩」は色あざやかなようす。明るく晴れやかな出発の情景を表す。)

## 問7 千里も離れた (遠くの) 江陵まで、わずか一日で帰り着く。

(流れの速い長江を、舟が一気に下っていくさまを表す。)

## 問8 舟で長江を一気に下って、目的地の江陵まで帰り着くこと。

(「還る」はもとの場所・行こうとする土地へ帰ることを指す。)

## 問9 ア (はるか遠く (千里) の、長江の下流にある町)

(江陵は今の湖北省にあたる下流の町。白帝城 (上流) から千里も離れている。)

## 問10 兩岸の猿の鳴き声が、まだ鳴きやまないうちに。

(「住 (や) まず」は止まらない・やまないの意。次の句へと続いていく。)

## 問11 長江三峡 (さんきょう) を通るときに、兩岸から聞こえる猿の鳴き声。

(三峡は切り立った峡谷で、古来、猿の声で知られた難所。)

## 問12 読み… (やま) ず 意味… (鳴き) やまない・止まらない

(「不」は打ち消し (否定) を表す。「住」をここでは「やむ」と読む。)

## 問13 軽やかな舟は、もう幾重にも重なる山々を通り過ぎてしまった。

(「輕舟」は軽やかに進む舟。舟の速さを印象づける結びの句。)

## 問14 読み…すで (に) 意味 (用法) …「もう・すっかり～してしまった」と完了を表す。

(「已 (すで) に過ぐ」で、いつのまにか通り過ぎていた、という完了の意を示す。)

問15 幾重にも重なって続いていく、多くの山々。

(「万重」は数えきれないほど重なるようす。三峡の険しい山々を指す。)

問16 「千里」という長い距離と、「一日」という短い時間とを対比させている。遠い道のをごく短い時間で下る、舟の速さ(と帰る喜びのほずむ気持ち)を強調している。

(数の対比によって、スピード感を際立たせる工夫。)

問17 イ(兩岸の猿の声がまだ鳴きやまないうちに、舟はもう幾重もの山々を通り過ぎていた)

(第三句「啼いて住まざるに」と第四句「已に過ぐ」が呼応し、声はやむ間もない速さを表す。)

問18 イ(自由を取り戻して帰る、晴れやかな喜び)

(表面は川下りの風景だが、行間に解放された喜びがこめられている。)

問19 (例) 一日・軽舟・已過 など。

(「一日(にして還る)」「軽舟」「已に過ぐ」などが、舟の速さを感じさせる。)

問20 (例) 夜郎への流罪の途中で恩赦の知らせを受け、自由になって帰る途上にあった。(37字)

(流罪→恩赦という展開を必ず入れる。喜びの背景を説明できればよい。)

問21 (例) 恩赦を受けて帰る喜びとスピード感。(17字) / (例) 自由を取り戻した解放感。

(指定字数に収まり、喜び・速さのどちらかが書けていれば可。)

問22 原則として、第二句と第四句の末で押韻する。起首の句(第一句)でも韻をふむことが多く、その場合は第一・二・四句の末で押韻する。

(この詩は第一句「間」・第二句「還」・第四句「山」で韻をふむ形。)